



荻の里

黒部市立荻生小学校

学校だより 12号

平成31年3月15日

目指す子供の姿 **や**さしく **か**しこく **た**くましく

学ぶことは生きること

校長 高岡 薫

先日、荻生地区の人権擁護委員でいらっしゃる松島さんが「全国中学生人権作文コンテスト 入賞作文集」を学校に届けてくださいました。その作文集における内閣総理大臣賞となった人権作文の題名が、表題にある「学ぶことは生きること」でした。私は、この題名に心惹かれ、読み進めることにしました。その作文には、中学2年生である筆者が夜間中学に学習ボランティアとして通い、そこで出会った自分の祖母よりも年上のBさんと一緒に分数の勉強をした場面のことが書かれていました。（以下、抜粋して紹介）

「今日習ったことを忘れたくないから、宿題を出してください。」と言われたのだ。私は自分の耳を疑った。宿題は私の天敵である。私が通う中学校では、生徒の意志に関わらず、自動的に宿題が山のように出される。宿題が得意でない私は、「どうして勉強しなければならないの？こんな勉強、何の役に立つの？」と学ぶこと自体を否定し、宿題も嫌々していた。だから、Bさんに宿題がほしいと頼まれたとき、私は自分が恥ずかしくなった。Bさんをはじめ、夜間中学に通う方たちの学びに対する情熱がまっすぐでとてもまぶしかった。（中略）私は本当に小さなことしかできないが、これからも夜間中学の学習ボランティアの一員として、学びの場を守り、ともに学んでいきたい。学ぶことは生きること。学ぶことの意味を教えてくださいたいと思う。

そして、日本では教育を受ける権利を保障されているはずであるが、今なお劣悪な状況に追いやられて生きている人たちがいることに気が付き、学びを求めている人たちに、もっと学びの場を提供していきたいという筆者の思いが綴られていました。自分がいかに恵まれていて甘えているのかを痛感したとも。

私はこの作文を読み終えて、「何のために学んでいるのか」と自問自答する筆者の姿を想像しました。「何のために学ぶのか」・・・それはまさに「生きるため」です。学ぶことによって、自分が成長し、周囲の人々との関わりを深めることができる、それこそが生きることにつながると、私は考えます。

さて、3月18日に行う平成30年度卒業証書授与式では、26名の卒業生がこの荻生小学校を巣立ちます。学校に通った日数は、6年間で1208日になりました。その間、元気に登校できる日ばかりではなく、気持ちが乗らず足取りの重い日もあったことでしょうが、6年生26名は、1208日の学びを重ねることによって、「やさしく かしこく たくましい荻っ子」に育ってくれました。今後は、中学校でのさらなる学びが待っています。自分の生きる道を見据え、自分にはどんな学びが必要なのかを模索しながら、大切なことはしっかりと身に付けて成長してほしいと願います。そして、この荻生小学校創校の精神である「一日一日を大切に生きる『将就』の精神」を心の糧としながら、自分の人生を切り開いてほしいと思います。

アクションプラン最終報告～１年間の取組を振り返って～

平成３０年度も残すところあとわずかとなりました。保護者の皆様には、この１年間心身ともに成長されたお子さんの姿をご覧になり、その成長を実感されていることと思います。学校では、今年度の総まとめと来年度に向けての準備を行っているところです。

今年度のアクションプランに関する取組と評価をお知らせします。今年度の成果と課題をしっかりと踏まえ、今後の学校経営・教育活動に取り組んでいきたいと思っています。今後ともご協力をお願いいたします。

【徳】やさしく	重点項目	【徳】生徒指導 ーやさしくー
	達成目標	強調週間を設け、児童の自己評価で元気のよい挨拶や望ましい言葉遣いできたとする日が８割以上ある児童の割合９０％以上を目指す。
	最終報告	A（１１月自己評価） 挨拶 92％（低…89％、中…93％、高…94％） ほかほか言葉 96％（低…98％、中…96％、高…94％）
	成果と課題	◎年度初めに、各学級で「挨拶の目当て・挨拶マスコット」の話し合い活動を行い、挨拶が自分たちの大きな取組の一つであると自覚するようにした。代表委員会では、各学級の意見をまとめ「大きな声で自分から、進んで挨拶みんなにこにこ」をスローガンとして決定してのぼり旗に記し、計画委員会や６年生がそれを持って毎日の挨拶運動に取り組んできた。 ◎今年度も地域の皆様にもご協力をいただき、「さわやかあいさつ運動」を年２回（６日間ずつ）実施した。どの学年も大きな声で元気のよい挨拶を行うことができた。 △子供たちは、自分は挨拶をしているという気持ちはあるが、声が小さく自分から挨拶することが少ないせいか、子供の自己評価に比べ保護者の評価は低い。今後は、挨拶の意義をよく考えさせたり、自分がどのように挨拶しているかを意識させたりすることで、自分も相手も気持ちがいいと思える挨拶の仕方を身に付けられるように働きかけたい。 △ほかほか言葉に関しても、各クラスで「使ってほしいほかほか言葉」を出して児童玄関に掲示し、計画委員会が呼び掛けた。ほかほか言葉を使おうとする児童が増える一方で、保護者から「言葉遣いがよくない」といった意見も学校評価のアンケート等で挙げられていた。学校生活の中でも、よくない言葉遣いが原因でけんかになることもあった。そこで、よくない言葉「ちくちく言葉」も具体化し、使わないように呼び掛けてきた。 ◎言葉遣いに関しては、家庭にも協力を依頼し「ほかほか言葉大作戦」の取組を２学期と３学期に行った。この取組を契機に、家でも学校でも言葉遣いを見直して気を付けようとする児童が増えた。取組に対する保護者や子供の感想からも、ほかほか言葉によって心が安定したり、相手の気持ちを思い合ったりできたという効果が感じられた。今後も、好ましい人間関係を築いていくために、挨拶を含めたよりよい言葉遣いができるようにさらに指導していきたい。

【知】かしこく	重点項目	【知】学力向上 ーかしこくー
	達成目標	強調週間を設け、家庭学習に取り組む時間が学年の目標（学年×１０分）に達成した日が８割以上ある児童の割合９０％以上を目指す。
	最終報告	A（１１月自己評価） 90.8％（低…92.7％、中…100％、高…81.5％）
	成果と課題	◎２学期の振り返り週間では、１学期よりやや下回ったが、約９１％の児童が「学年の目標時間以上、家庭学習をした」と答えた。学年間で若干の違いはあるが、概ね目標は達成されているものと思われる。その要因としては、自学ノートを使った家庭学習が定着していることが考えられる。この取組は、今年で５年目になり、子供たちの中に「家庭学習＝宿題＋自学」という意識が根付いていると考える。年に５回実施している「家庭学習がんばり週間」

	でも、毎回土日を含め、毎日自学ノートに取り組んでいる子供が6割以上おり、目当てに向かってこつこつと頑張る子供が増えている。自学ノートを7冊終了すると、全校の前で表彰され、校長先生からノートのよい点を話してもらうことも励みとなっている。7冊達成者は H26→15 人、H27→50 人、H28→79 人、H29→83 人、H30→59 人（3/1 現在）と年々増えている。 △一方、保護者の評価を見ると「よくできている」の結果が、全校で約77%と児童の評価より10%以上低くなっている。昨年は20%以上の開きがあったのと比較するとその差は縮んだが、まだまだ大きいと言える。特に高学年では、児童と保護者の評価の差が約25%ある。高学年になると、スポ少や習い事等もあり、自由に使える時間が少なくなり、その限られた時間の中で1時間程度の家庭学習を毎日継続することは難しいのが現状であろう。また、ゲーム等のメディアに時間を割いていることも考えられる。中学校に向けて家庭学習の定着は大切だということを伝えていきたい。 △学習規律の徹底に向けて、職員で共通理解・共通行動を心がけているが、学年の発達段階や児童個々の特性等により徹底できていないところもある。児童理解を基本としながら規律ある学習活動が行えるよう努力していきたい。 △チャレンジテストの合格が難しい児童が少なからずいる。漢字や計算問題を繰り返し練習しているが、定着するには時間がかかる。早めに事前練習に取り組むなどの対策を心がけたり、また、必要に応じて教務主任等も加わり、児童の個別学習や再チャレンジテストの指導を行ったりしていきたい。
--	--

【体】たくましく	重点項目	【体】健康・安全の指導 ーたくましくー
	達成目標	「みんなでチャレンジ3015」の達成率が90%以上になることを目指す。
	最終報告	A（2月末達成率）90.9%（低…89.1%、中…97.7%、高…87.3%）
	成果と課題	◎2学期の振り返り週間では、全校で約80%の児童が、「よくできた」と答えている。アンケートをした時期が、寒い時期だったこともあり、1学期より外で遊ぶ機会が少なく、運動をしたという実感がないことが考えられる。冬場の運動である縄跳び運動が定着すれば、運動の習慣がさらに促進すると思われる。冬場は毎日コンスタントに運動することが難しくなる。保護者の声にも「楽しく体を動かせるスポーツを増やしてほしい」という要望や「みんなでチャレンジ3015の取組の説明がほしい」などの意見もあった。冬場の運動機会の確保と充実に取り組んでいく。 ◎週2回あるわんぱくタイムには、晴天時にはグラウンド走、雨天時・冬期間には縦割りグループによる長なわとびや短なわとびに取り組んでいる。大休憩や昼休みには、グラウンドや体育館で元気に遊んでいる児童が多く、体を動かすことが好きな児童が多い。保護者アンケートでも「家ではあまり体を動かすことがないので、わんぱくタイムがあることで、意欲的に体を動かすことができていると思う。（中学年保護者）」『みんなでチャレンジ3015』があることで、毎日運動することが習慣付くので体力アップにつながると思う。（低学年保護者）」という意見があった。 △決められた時間までに就寝していない児童が固定化している。保護者アンケートでも「ゲーム・テレビをだらだらとやりがちになる。別の小学校では、『ゲーム0の日』のような取組もあると聞く。学校全体ですれば少しは効果があると思う。」という意見をいただいた。そこで今年度は、家庭学習ががんばりカードの中に、『ゲームを1時間以内にした』という項目を設け、1週間実態を把握してみた。結果、全校で80%程度の子供たちが守っていると回答した。しかし、学年が上がるにつれて、親の目も届きにくくなり、守っていない子供が多く見られた。今後とも、児童への指導を進めるとともに保護者への啓発も含め、家庭と連携しながら指導を継続していく必要がある。

荻っ子の健やかな成長を願って～第2回学校評議員会より～

3月6日（水）、今年度2回目の学校評議員会を行いました。評議員の皆様には、子供たちの学習を参観していただいた後、アクションプランの最終報告や学校の課題等についてご意見をいただきました。それぞれの立場や視点から様々なご意見をいただきましたので、その概要をお知らせいたします。

【子供の現状や課題について】

- ・不登校やいじめに関して、私たち評議員もそれぞれの立場で学校の力になれるよう努力していくつもりである。
- ・学校の情報はいただいた方がよい。黒部市でも不登校対策事業や3・4年生の少人数指導授業を行っていると聞いている。
- ・民生委員としては、学校と情報共有する場が必要だと思っている。
- ・いじめについては、積極的に情報公開してほしい。
- ・学校では1回いじめがあると毎日顔を会わせなければいけないのでいじめられた子供はつらいと思う。何よりいじめが起こらないようにしていく未然防止が大切だと思う。
- ・小学校と保育所が、情報共有することが大切である。きっと保育所でできることがまだあるのではないかと思う。

【子供のしつけについて】

- ・最近の子供たちを見ていると褒められすぎではないかと思うことがある。叱られることが少ないので大人になってからの逆境に弱い。
- ・小さいときに周りの大人に認められる、褒められる子供は自己肯定感が高くなり学習意欲も高い。
- ・子供たちの環境を変えてみるのも大事なことである。いくつかの経験があると客観的なものの見方ができるようになる。

【地域での取組について】

- ・今年度、荻生地区で不審者を見たという事案が多くあった。青パト隊で地域を巡回していても子供の下校している姿を見ることはほとんどないが、子供たちの通学経路が分かっているだけでももう少し効率よく見守り活動ができるかもしれない。
- ・学校では、知らない人から声をかけられても答えてはいけない、知らない人について行ってはいけないと指導されていると思う。しかし、その知らない人のほとんどはいい人で、ほんの一部の人が悪い人である。自分の住んでいる地区で登校する児童に挨拶をしても無視をされたと言って嘆いておられる方もいた。今のような指導が本当にいい指導かどうか疑問である。
- ・荻生地区の民生委員は7人いるが、日中なかなか見守り活動に出られないのが現状である。もし、PTAが主導するような見守り活動があれば、われわれ民生委員も参加したい。

学校評議員の皆様からいただいた貴重なご意見を来年度の学校経営に生かしていきたいと思っております。そして、よりよい「荻っ子」を育てるため保護者・地域の皆様と手を携え努力していきます。

学校評議員の皆様、1年間ありがとうございました。

大切に使います ～卒業祝い品授与式～



3月13日（水）に、PTA 会長 赤澤利彦様、JA くらべ北部支店長 御田啓子様にご来校いただき、卒業祝い品授与式を行いました。

PTA からは「ペン立て付き時計」、JA くらべからは「蛍光ペンセット」、学校からは「卒業証書フォルダー」が、卒業生へ授与されました。

卒業生を代表して 久我口 航星 さんが、感謝の言葉とともに中学校進学に向けての決意を述べました。